

Contents

1 2 2015年度 国際教育ワークショップ報告

3 4 SIA NEWS

- 「人権のまちづくりフェスタ2015(彦根)」に防災啓発ブース出展!
- 滋賀県多文化共生の地域づくりセミナー「市民活動と多文化共生」
- 外国人アーティスト展開催 ○外国人による日本語スピーチ大会
- 2015年度 SIA(しーあ)ボランティア活動紹介

5 今、この人にInterview

クラリネット・サクソ奏者 ガハブカ アンドレアスさん

6 おしえて世界のこと 「家庭料理について」

人と人をむすぶ、
人と世界をむすぶ

Shiga Intercultural Association for Globalization

公益財団法人 滋賀県国際協会

〒520-0801 大津市におの浜1丁目1番20号 ピアザ淡海2階

TEL.077-526-0931 FAX.077-510-0601

E-mail: siamail@mx.bw.dream.jp URL: http://www.s-i-a.or.jp

2015年度 国際教育ワークショップ 地球市民を地域とともに育てよう part 14 報告

特集

今こそ知りたい! 世界で増え続ける難民

～あなたは、難民についてどれだけ知っていますか?～

世界各国で増え続ける難民について、マスメディアで取り上げられることが多くなっています。一方、日本の難民受け入れ状況は、昨年度5,000人の申請に対して認定されたのは11人という厳しい実態からみると、そもそも「難民」とはどのような背景から生まれ、どのような課題を抱えているのかに関心を持ち、十分に理解している人はそう多くないのではと思われます。そこで、今回、世界の難民問題について学び、難民支援や受け入れについて関心を高めることをねらいとした講座を開催しました。

■開催日:2015年12月27日(日)

■会場:ピアザ淡海(大津市)

■参加者:60人

午前の部

講演「世界の難民と私たち:インドシナ難民、シリア難民を例に」

講師:認定NPO法人難民を助ける会(AAR Japan)理事・支援事業部長 名取 郁子さん



●「難民を助ける会(AAR)」

1979年、日本に逃れてきたインドシナ難民を支援するために始まった団体。政治、宗教、思想に偏らない市民団体として、これまで60以上の国や地域で緊急支援、障害者支援、地雷対策、感染症対策、啓発活動を行っている。

世界の難民の数は、昨年の夏で約6,000万人です。難民は過去の20世紀のことだと思いがちですが、現在進行中で増え続けています。

■難民の定義について

難民とは、正式には「国の外に逃れた人」のこと。国内を逃げ惑う人は「国内避難民」と区別しています。さらには、「条約難民」と呼ばれる狭義の難民と、広義の難民があり、広義の難民とは、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)が支援する対象です。

●条約難民

人種、宗教、国籍もしくは特定の社会集団の構成員であること又は政治的意見を理由に迫害を受けるおそれがあるという十分に理由のある恐怖を有するために、国籍国の外にいるものであって、その国籍国の保護を受けることができないもの又はそのような恐怖を有するためにその国籍国の保護を受けることを望まない者。

●広義の難民

内乱、内戦、外国の支配、外国による占領または重大な政治的混乱の理由で国外にある者。

■シリア難民の現状と難民支援

昨年10月の時点で、トルコには220万人のシリア難民がいて、トルコ政府は難民キャンプを作って支援しています。キャンプに入れば、学校、病院があり、食べ物も支給されますが、受け入れは27万人が精一杯というところ。

トルコに逃れてくるシリア難民はどんどん増えているため、キャンプに入れられない人のうち、資金や体力の



写真提供：AAR

ある人はヨーロッパ、または首都のイスタンブールから陸路で住みやすい所、仕事のある所へ移動し、落ち着いたら家族を呼びよせる、という家族もいます。あるいは、私は死ん

でもいから帰る、といてシリアに戻っていく人もいます。

AARでは、キャンプの外の難民の方々が住んでいる場所を探しながら、食料や毛布などの支援物資を届けたり、衣料などは引換券を配布し、現地の店舗で購入してもらう方法で支援しています。

■避難生活の長期化に対するAARの支援

シリア難民の避難生活の長期化を受け、「コミュニティセンター」を開設しました。トルコ行政からの支援情報の提供や、仕事が見つかるようにトルコ語講座の開設、互いの文化を理解し、地域に溶け込んでいけるように現地のトルコ人との交流イベント（料理教室、映画鑑賞会等）の開催などを行っています。

■日本における難民の支援について

難民には3つの選択肢 ①自主的帰還 ②避難先国での定住 ③第三国定住があります。

日本にはミャンマーに対して第三国定住の制度がある。タイの難民キャンプで政府が日本で暮らしたい人を募集、審査し、来日後6ヶ月間研修を実施して日本に定住してもらうという制度。

インドシナ難民への対応は、当時、特別枠で1万1,319人を受け入れました。日本は、1982年1月1日に難民条約に加入し、難民認定制度が発足しました。今年、シリア難民60人が難民申請をしたと言われ、うち3人が認定を受けています。

「どうしてもシリアは遠い国のことで、ボートで日本に流れ着いてきているわけでもないのに、世論の高まりという意味においてはインドシナ難民のときほどではないのかなと思います」とのお話でした。

ワークショップ&スカイプ中継

午後の部



■難民について学ぶワークショップ

講師：川崎医療福祉大学教授 JICA 関西教師海外研修OB会代表 山中 信幸さん

冒頭の難民クイズでは、世界の難民の86%を受け入れているのは、トルコ、パキスタン、レバノンの3国で、先進国ではなく途上国が受け入れている現状などに触れました。その後、2～3人を1グループとして架空の家族となり会場バラバラになったところ、電気を消し真っ暗な室内で、戦車の迫る音や爆撃音が聞こえる中、目をつぶって家族を探し出す体験をしました。続いて、教材「難民すごろく」を使って、難民になったらどんな状況に置かれるかを疑似体験し、最後に「これから自分たちがやってみようと思うこと」を参加者同士が共有しました。



■スカイプ中継：難民支援の現場から

報告者：JICA 青年海外協力隊 加朱 将也さん（滋賀県出身）

青年海外協力隊としてヨルダンの難民キャンプで活動中の加朱さんからスカイプを通じて、現状報告を受けました。

住居、食べ物、水などの緊急支援は行き渡っているが、閉鎖的な環境のため、子どもだけでなく大人も大きなストレスを抱えていることが現在の課題。現在は、NGOなどと協力しながら、教育や福祉の充実が積極的に進められているとのことでした。

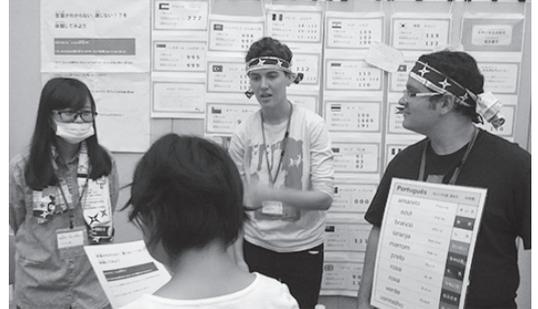
その後、参加者から次々と出された「難民キャンプから出て行くのにかかる期間や方法は？」といった質問の一つひとつに、加朱さんが現地スタッフと一緒に答えてくださり、会場は臨場感に溢れていました。

NEWS
1

「人権のまちづくりフェスタ2015 (彦根)」に防災啓発ブース出展!

■日時：2015年10月10日(金) 10:00～15:00
 ■会場：ひこね市文化プラザ(彦根市)
 ■主催：彦根市、人権啓発活動湖東・湖北地域ネットワーク協議会

「防災から広げる共生のまちづくり事業」の一環として、彦根市国際協会と協力し、多文化と防災をテーマにした啓発ブースを出展しました。当日は、両協会の職員だけでなく、滋賀県災害時外国人サポーター、びわこ奨学生(留学生や外国籍学生)、滋賀県国際交流員や海外技術研修員等の有志もボランティアスタッフとして参加してもらいました。その中からベトナム出身のグエン ツー フェンさん(びわこ奨学生)から当日の活動について報告がありましたので、ご紹介します。



「人権のまちづくりフェスタ」にボランティアスタッフとして参加しました。「言葉がわからない体験ゲーム『何が起こった?』(震災編)」では、母国語を使い、二本のペットボトルのうち、どちらが飲み水であるかを日本人の方々に伝えました。このゲームに参加するのは子供が多かったですが、初めて様々な外国語を聞き、すごく楽しそうな子もいたり、ちょっと恥ずかしそうにしている子もいたりしました。私自身、日本人の子供と直に触れ合うことは初めてであり、本当に楽しかったです。

また、「多文化×防災」に関する資料(各国の緊急時通報電話番号)の展示も行っていたので、日本人の方々にベトナム語やベトナムの救急車や警察の緊急番号を紹介することができました。ベトナム語を初

めて知った参加者も多く、このイベントがベトナムの文化などに興味を持ってもらえる良い機会になったと思います。

今回、日本人以外にも中国、アメリカ、ブラジル等様々な国の方々と触れ合い、互いのことについて話すことができ、貴重な体験ができたと感じています。皆、相手のことをよく知らなくても、努力して理解し合い、協力できました。このような理解と協力は、良好な国際関係を築く基礎であると感じました。

さらに、地震の際にやるべきことなどがよくわかり、役に立つ知識が得られました。これからも様々なボランティア活動に参加していきたいと考えています。

NEWS
2

滋賀県多文化共生の地域づくりセミナー「市民活動と多文化共生」

■日時：2015年12月1日(木) 13:30～16:50
 ■会場：ピアザ淡海 207会議室
 ■対象：滋賀県国際交流推進協議会会員、一般県民 他
 ■事例発表：NPO法人Links・日和-寺子屋-大津・ワールドアミーゴクラブ
 ■講師：大阪大学 未来戦略機構第五部門 未来共生イノベーター 博士課程プログラム 特任准教授 榎井 縁 氏
 ■共催：滋賀県・淡海ネットワークセンター(公益財団法人淡海文化振興財団)・滋賀県国際交流推進協議会



滋賀県および淡海ネットワークセンター、滋賀県国際交流推進協議会(事務局 滋賀県国際協会)が、連携・協力し、「多文化

共生の地域づくりセミナー」を開催しました。

第一部では、「未来ファンドおうみ助成事業」を活用

し、県内で多文化共生に繋がる事業を実施している市民団体の事例発表を、第二部では、大阪大学 未来戦略機構第五部門未来共生イノベーター博士課程プログラム 特任准教授の榎井 縁氏による講演を聞きました。講演では、「市民活動ができる多文化共生社会づくりへの第一歩は、“外国人に対する配慮は、特別扱いではなく、日本人にすでに配慮されていることと同じことを保障しようという『配慮の平等』の考え”の基に、互いを承認し多様性を認め、不平等を許さない地域づくりを進めていくことである。」というお話でした。

NEWS
3

外国人アーティスト展開催

■期間：2016年2月1日(月)～2月15日(月)
 ■会場：ピアザ淡海 1階 ロビー

県民の皆様に、滋賀県在住の外国人アーティストの文化芸術作品を鑑賞し、多様で豊かな文化に触れることで、国際理解を深めていただけるよう、「外国人アーティスト展 Vol.10」を開催しました。



今回は、中国出身の金燕さんによる絵画展で、「愛と笑顔」をテーマとした絵画18点を展示。1997年来日し、現在は草津市内で中華料理店「金燕の家」を営む金さんによる愛や笑顔が溢れる世界を多くの皆さんに鑑賞していただきました。

NEWS
4

第12回びわこ日本語ネットワーク(BNN) 外国人による 日本語スピーチ大会 一つたえよう 私のおもいー

■日時：2016年2月28日(日) 12:40～16:30
 ■会場：野洲文化小劇場(野洲市) ■主催：びわこ日本語ネット

当協会は、今年度もBNN主催の「外国人による日本語スピーチ大会」の開催に協力しました。

当日は、書類選考で選ばれた14人の方が出場し、それぞれ興味深いテーマでスピーチを披露されました。当協会からは会長賞を授与しました。受賞者は次のとおりです。

受賞者の皆さん、おめでとうございます！

(公財)滋賀県国際協会 会長賞
 アンドウ ミズナさん(フィリピン出身)

最優秀賞(知事賞)	イリクラ パンヤターさん(タイ出身)
優秀賞(野洲市長賞)	中村 翔さん(中国出身)
優秀賞(BNN賞)	チシロ アイリンマウレンさん(フィリピン出身)
奨励賞	マスワティさん(インドネシア出身)

～2015年度 SIA ボランティア活動紹介～

当協会登録ボランティア(SIA ボランティア)は、国際交流支援、ホームステイ・ホームビジット受入れ、通訳・翻訳の分野で活動いただいております。

今年度の主な活動実績をお知らせします。

■国際交流支援<当協会主催事業>

- 外国人アーティスト絵画展(ポリビア)
 「Los Colores de LAGO TITIKAKA チチカカ湖の色彩」
 展示設営補助 3名
- ラ・フォル・ジュルネ キッズプログラム
 「ドイツ人音楽家と音楽を楽しもう！」実施補助 3名
- 防災から広げる共生のまちづくり事業
 「人権のまちづくりフェスタ2015」啓発ブース
 出展補助(於：彦根市) 3名
- 外国人アーティスト絵画展(中国)「愛と笑顔」 展示設営補助 1名
- 治西のびのび広場 国際理解学習出前授業
 小学生との交流 外国人ゲスト(アメリカ) 2名

■ホームステイ・ホームビジット受入れ

- 平成27年度 内閣府グローバル
 ユースリーダー育成事業
 「シップ・フォー・ワールド・
 ユース・リーダーズ」(メキシコ・
 アラブ首長国連邦(UAE)青年の
 受入れ) 4家庭



ボランティアの皆さん ありがとうございました！！

■通訳・翻訳

- 滋賀大学附属中学校 姉妹校交流プログラム
 (韓国・美湖中学校) 韓国語通訳 3名
 - 介護職員養成研修受講者募集チラシ 中国語翻訳 1名
 - 職業人と語る会 中国語通訳 運営補助 2名
 - 第39回全国高等学校総合文化祭 2015 滋賀 びわこ総文
 国際交流事業 海外交流団知事表敬 英語、韓国語通訳 2名
 - 県教育委員会発行「夢の設計図」改訂箇所 中国語翻訳 1名
 - 日本赤十字社滋賀県支部 青少年赤十字国際交流事業マ
 レーシア高校生受入れ 英語通訳 1名
 - アラビア語の手ほどき 2名
 - 卒業式の歌のスペイン語翻訳 2名
- その他、イタリア語通訳 など

<ホストファミリーの感想から>

- 日本の国が若者のためにこういう事業を展開していることを改めて知りましたし、世界の若者たちが、積極的に日本を学ぼうとしている実態にも触れることができ、うれしく思っております。
- 対面式での正装に感動し、戒律の厳しいお国柄の方に失礼のないようにと少しドキドキしましたが、いきなり両手を広げてハグされ、一気に緊張がほぐれ、楽しい交流が始まりました。

今、この人に Interview

クラリネット・サクソ奏者 **ガハプカ アンドレアス**さん



▲「音楽はクラシックからミュージカルまで何でも演奏しますが、特にスウィングジャズが好き」というガハプカさん。

ドイツ語を教え、音楽の演奏活動をしなが “主夫”生活。ドイツ流のゆったりした ライフスタイルを実践していきたい。

■日本に来たきっかけは？

私は国立中央ドイツ歌劇場ヴィッテンベルクのソロクラリネット奏者でした。ヴィッテンベルクは旧東ドイツのライプツィヒとベルリンの間にある小都市で、マルチン ルターが宗教改革を行ったことで有名です。妻は日本人ですが、声楽の勉強のためにドイツに留学し、私が働いていた歌劇場でオペラ歌手として活動していたため、そこで出会いました。

しかしドイツは東西統一の影響で失業率が高くなり、税収が減って国の予算がカットされたため、私たちが勤めていた歌劇場も2002年に閉鎖されました。そこで活動の拠点を日本に移すことに決め、2005年来日しました。

■来日してすぐ、滋賀県に来られたのですか？

妻は大学の教員として働き始めたので、最初は京都の宇治に住んでいました。私はドイツでは湖のそばの家に住んでいたの、水が大好きなんです。それで水辺のまちに住みたいと思い、大津の琵琶湖岸に家を見つけて2006年に引っ越してきました。今住んでいる所は湖岸から歩いて5分で、自宅から琵琶湖が見えるのでとても気に入っています。

■日本でも音楽のお仕事を中心にしておられるのですか？

最初はカルチャーセンターでクラリネットを教えていました。その他、日本在住のドイツ人のすすめで映画やテレビ番組に出演したこともあります。映画「バルトの楽園」ではエキストラで、音楽団の中のクラリネット奏者の役を、またNHKの「歴史秘話ヒストリア」でユーハイムの役をやりました。自分の国ではできない面白い経験でしたね。

でも子どもが生まれてからは、私は子育てが中心です。最初妻のご両親に会ったとき「妻が働いて稼ぐなら私は日本で“主夫”になります」と冗談で言ったのですが、半分くらいは本当に

なりました。今は音楽の仕事としては、堅田にあるフレンチレストランで定期的にクラリネット演奏をしています。また、妻と一緒に演奏会に出演することもあります。

■ドイツ語やドイツの文化に関する活動もされているのですか。

大津市国際親善協会のドイツ語講座の講師と、自宅でのドイツ語の個人レッスンをしています。また近年は他の国際交流協会が開催する異文化紹介イベント等でドイツの文化について話したり、ミニ演奏会をしたりもしています。

■ドイツ人は几帳面なところが日本人と似ていると言われていますが、ドイツ人の立場から見てどうですか？

私から見ても、日本人とドイツ人は性格的に似ていると思います。もし財布を落としても、戻ってくるのは日本とドイツぐらいだと言われていますからね。だから「日本はどうですか？」とよく質問されますが、私は暮らしやすいですね。

私の両親は現在のチェコ出身ですが、第二次世界大戦まではドイツ領でした。敗戦で住んでいた場所から追放され、ドイツに行きゼロからがんばってきたんです。日本も第二次世界大戦のあと、貧しい中で復興に向けて努力してきましたね。そんなところも似ていると思います。

■日本とドイツとの違いに驚いたことはありますか。

日本は、働き過ぎで休みがないことですね。大阪の企業でドイツ語レッスンをしていたとき担当していた会社員は30歳代で子どもが3人いましたが、毎日残業で「いつ子どもに会うんだろう？」と思いました。ドイツでは私の勤務時間は朝6時台から午後4時頃まででしたので、仕事が終わってから家族と過ごす時間がありました。また年に6週間の有給休暇があり、私は夏に5週間の長期休暇を取っています。

●プロフィール●

1968年生まれ、ドイツ出身。ドイツ国立ライプツィヒ音楽大学を卒業し、2002年まで中央ドイツ歌劇場ヴィッテンベルクソロクラリネット奏者を務めた。またニュルンベルク歌劇場やマーグデブルク歌劇場などでも客員奏者を務め、ルードヴィッヒIIミュージカル歌劇場ではサクソ奏者として活動している。アンサンブルグループ「ムジカ・ダ・カマラ」主宰。

た。そのうち2週間はリゾート地で演奏をして、そのお金でメキシコ旅行に出かけたこともあり。日本でも若い人たちは長時間労働をいいこととは思っていないでしょう。そこはこれから変えていけばいいと思います。

■日本のライフスタイルを変えていくためのアドバイスをお願いします。

長い時間働くと、いい仕事ができなくなります。疲れて新しいアイデアが出なくなるからです。でも1週間休みを取って違う経験をする、頭の中がフリーになって、考え方がフレッシュになります。日本の食事はヘルシーだと思いますが、働き方を変えることで、もっと健康的な人生が送れると思います。ぜひ少しずつ考え方を変えていってください。



▲ガハプカさんが出演した作品。「バルトの楽園」は第一次世界大戦で日本軍の捕虜になったドイツ人が徳島の俘虜収容所でオーケストラを結成し、日本で始めてベートーヴェンの「第九」を演奏した実話をもとにした映画。NHK「歴史秘話ヒストリア」のユーハイム役は、本人が一番顔が似ているということで頼まれたという。

食は、いつの時代も世代や国境を越え、人と人の距離を縮め、あたたかく心の通った関係を作ってくれる潤滑油のようなものであります。それぞれの国の家庭でのごちそうや一般的によく食べられているものにはどんな料理があるのでしょうか？

■ケニア

藤井 秀人さん(青年海外協力隊)

ケニアは多民族国家なので、民族によって主食が違います。ウガリというトウモロコシの粉をお湯で練ったもの、ギデリというトウモロコシと豆を煮たもの、チャパティという薄いパンのようなもの、また日本と同じくお米を主食にしている民族もいます。ごちそうはニャマチョマと呼ばれる焼き肉が一番です。特にヤギ肉が好まれます。私の住んでいる地方では年配の方で鶏や魚が苦手な人もいます。「魚はへびみたいだから」という理由だそうです。

■ケニア

大森 聖朗さん(青年海外協力隊)

普段の食卓に並ぶ料理として主食にはウガリ、副菜には煮たジャガイモや焼いたキャベツやスクマと呼ばれる野菜、そこに煮たり、焼いたりした牛肉、鶏肉が並びます。味付けはシンプルで塩味が多く、お好みでトマトソースなどをかけて食べます。特別な時のご馳走は鶏の丸焼きです。

■チュニジア

菊森 千恵さん(青年海外協力隊)

最もポピュラーな家庭料理は「クスクス」です。北アフリカ発祥のクスクスは小麦粉から作られる粒状の粉食で、様々な香辛料やオリーブ油などを混ぜたソースと肉や魚、野菜を上に乗せて盛り付けます。他にもザクロと砂糖、ローズ水を混ぜてデザートとして食べることもあります。

■ペルー

申橋 アレクサンダーさん(青年海外協力隊)

ペルー共和国カハマルカ州のごちそうは

「クイ」というテンジクネズミです。クイはペルーの山岳部では高級料理として認識されており、特別な行事でない限り、食べることはありません。味は鶏肉に似ていますが、頭と爪が残ったままなので食べるのに勇気がいります。ちなみに、頭が一番贅沢でおいしいとされています。

■エクアドル

田中 愛子さん(青年海外協力隊)

エクアドルの古くからのごちそうである「クイ」。鶏などよりも食べられる部分は少ないですが、昔から重宝され今も市場で高値で売られています。なんでクイというのか？「クイ〜！クイ〜！」と鳴くからだそうです。お祝いごとや家庭訪問の時などに振舞われました。ふむふむ…なかなかおいしい！

■アメリカ合衆国

アボット ロバートさん(滋賀医科大学特任教授)

アメリカでは野生の七面鳥が多く、身近な食品として親しまれてきました。七面鳥の丸焼きはクリスマス、サンクスギビングなど家族が集まって楽しむ家庭料理の代表です。大きなオーブンで数時間(6-8時間)かけてじっくり焼きます。私の大好物はターキーサンドウィッチです。ライブレッドにレタス、トマト、玉葱、穴のあいたスイスチーズとマヨネーズを少々。アメリカにいた時はほぼ毎日ランチに食べていました。

■ミクロネシア

森 光子さん(シニア海外ボランティア)

ミクロネシアでは野菜を食べる習慣がありません。先ずおなかの膨れるご飯が大きな洗面器のような入れ物で、中央に置か

れ、副食はタロイモなどのローカルフードの煮たもの、魚やチキンの揚げ物や刺身です。基本は手食で、一つの器から家族で囲んでいただきます。

〜お詫び〜

SIA101号の「おしえて世界のこと」コーナーにて、写真の掲載場所に間違いがありました。お詫びして訂正いたします。

(訂正内容)ミクロネシアの森光子さんの記事と共に掲載すべき写真を、誤ってエクアドルの田中愛子さんの記事と一緒に掲載してしまいました。お詫びして訂正します。

「ユニセフ外国コイン募金」への ご協力ありがとうございました



1月18日に(株)滋賀銀行様より、同銀行の本支店で2014年と2015年の7月から9月にかけて実施された「ユニセフ外国コイン」募金活動で集められた35,6キロの外国コインを当協会へご寄贈いただきました。滋賀県国際協会では、日頃よりJICA関西と連携して、事務所に募金箱を設置し、募金いただいたコインをまとめて、日本ユニセフ協会に届けています。

ユニセフ外国コイン募金は、日本ユニセフ協会が実施している事業で、旅行や出張で海外に行ったときに残ったコインや紙幣を集め、世界の子どものための保護や教育に役立てられます。

皆様のお宅でも引き出しの奥などに眠っている外国コインがございましたら是非、ご協力いただけますようお願いいたします。

外国人向け情報紙「みみタロウ」を以下の店舗に設置いただいております。ご利用ください。

●イオン長浜(専門店側入口を左) ●イオン近江八幡(1Fセントラルコート内) ●イオン草津(イオン北入口(琵琶湖岸・守山側)を左)

●会員募集のご案内

県民の皆様の当協会の活動に対する理解と幅広い参加をいただくために会員を募集しております。国際交流や多文化共生地域づくりに関心をお持ちの方、新しい出会いを求めておられる方のご入会をお待ちしております。

【会員特典】

- ・当協会主催イベント参加費の割引
- ・県内外料理レストラン、琵琶湖汽船、旅行会社等の利用割引、優待等
- ・当協会情報誌のお届け
- ・県内イベント案内のメルマガ配信
- ・国際情報サロン図書等や国旗の貸出サービスあり

【会費】

- ・学生会員 1口 年額 1,000円
- ・個人会員 1口 年額 2,000円
- ・団体会員 1口 年額 10,000円

<現在の会員数>

- ・個人会員 325人
- ・団体会員 89団体
(ともに平成28年2月29日現在)
- ・新規入会
個人9人
(平成28年10月1日~平成28年2月29日現在)
ご入会ありがとうございました。

ピアザ淡海1階のパスポートセンターで パスポート申請をされる皆様へ

(公財)滋賀県国際協会では、パスポートを申請される皆さまの便宜を図るため、ピアザ淡海1階で、パスポート申請用の写真撮影を行っています。

どうぞ、ご利用下さい。

